

## 平成12年度PRTTR事業調査結果について

○平成11年度における県内の有害化学物質の排出・移動量は  
111物質、約14,100t

排出量：90物質、約 8,000t (環境中への排出)  
移動量：90物質、約 6,100t (廃棄物・下水道等への移動)

岐阜県では、平成10年度から環境汚染化学物質対策として、独自で県内全域の事業所を対象にPRTTR<sup>\*</sup>法に基づく調査を実施しております。

平成12年度事業(平成11年度実態)の調査結果は、下記のとおりです。

### 記

#### 1 調査方法

県内の事業所を対象に、平成12年8月に説明会を開催し、調査を実施した。

報告のあった化学物質の、環境中(大気・公共用水域・土壌)への排出量及び廃棄物・下水道等への移動量について集計した。

(1) 調査対象期間 平成11年4月1日～平成12年3月31日

(2) 対象事業所 製造業及び一部の非製造業(洗濯業、廃棄物処理業、学術研究機関等)の2,000事業所

(3) 対象化学物質 PRTTR法に基づく第1種指定化学物質354物質

・第1種指定化学物質では取扱量1t/年以上、含有率1%以上

・特定第1種指定化学物質では取扱量0.5t/年以上、含有率0.1%以上

#### 2 調査結果まとめ

(1) 県内の排出・移動量は、111物質14,103t/年であり、排出量及び移動量はそれぞれ、90物質7,953t、90物質6,150tであった。

排出量のうち、大気中には7,725t(97%)と最も多く、また移動量としては、廃棄物中に5,493t(89%)であった。

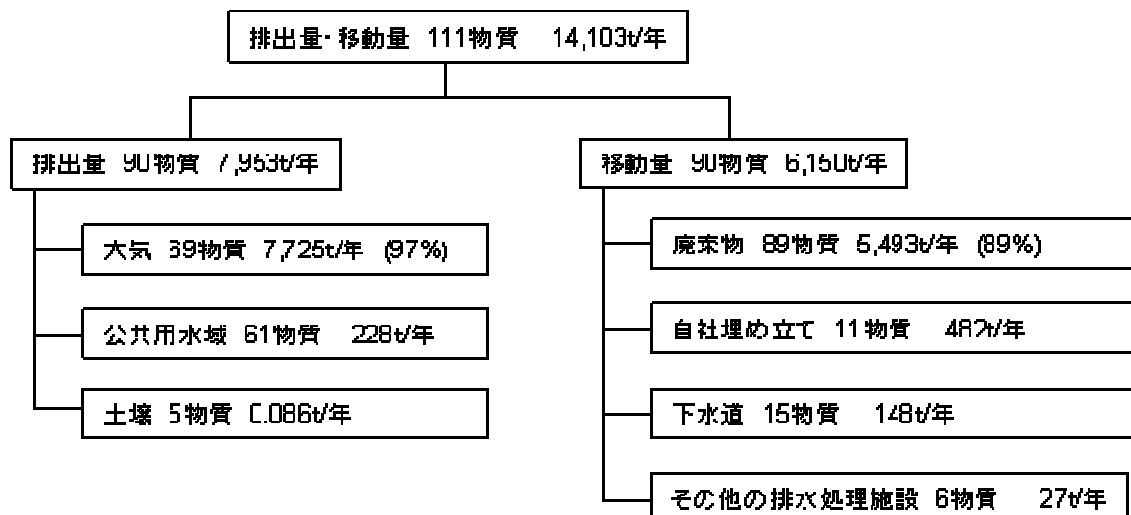


図1 排出量・移動量フロー

(2) 排出及び移動の主な物質について

主な排出及び移動物質は次のとおりであった。

- ・ 環境中(大気・公共用水域・土壌)へ排出された主な化学物質

物質名	合計排出量 (t/年)	排出割合	主な用途
トルエン	3,329	42%	合成原料、塗料・インキ溶剤
キシレン	2,174	27%	合成原料、塗料溶剤等
ジクロロメタン	1,107	14%	金属脱脂洗浄剤、ペイント剥離剤等
環境中への総排出量	7,953	—	

- ・ 廃棄物・下水道等へ移動のあった主な化学物質

物質名	合計排出量 (t/年)	移動割合	主な用途
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	1,434	23%	プラスチックの可塑剤
キシレン	1,088	18%	合成原料、塗料溶剤等
廃棄物等への総移動量	6,150	—	

3 調査結果詳細

(1) 報告状況

2,000 事業所を対象に調査を行ったところ、1,330 事業所から報告があった。

対象事業所 (a)	報告事業所 (b)	報告率(b)/(a)× 100
2,000	1,330	66.5%

(2) 化学物質の取扱状況

回答のあった1,330 事業所における取扱状況は次表のとおりであり、PRTR 法における

報告対象事業所は、回答事業所の約 30%にあたる、397 事業所であった。

回答事業所(b)	ア. PRTR 報告対象		イ. 取扱量が報告対象量未満		ウ. 第1種指定化学物質を 取り扱っていない	
	事業所数(ウ)	割合 (ウ)/(b)	事業所数 (ア)	割合 (ア)/(b)	事業所数 (イ)	割合 (イ)/(b)
1,330	397	29.8%	389	29.2%	544	40.9%

(3) 化学物質の環境中への排出状況及び廃棄物等への移動状況

111 種類の化学物質で 14,103 (前年度: 12,319) t/年が環境中又は廃棄物等へ移動しており、媒体別では図 2 に示すとおり、大気中への排出が 54.8%、廃棄物への移動が 39.0%であり、大気中への排出が多かった。

また、圏域別では、図 3 に示すとおり西濃圏域が 38.4%と最も多く、ついで中濃圏域が 25.8%、東濃圏域が 15.1%、岐阜圏域が 13.2%、飛騨圏域が 7.4%であった。

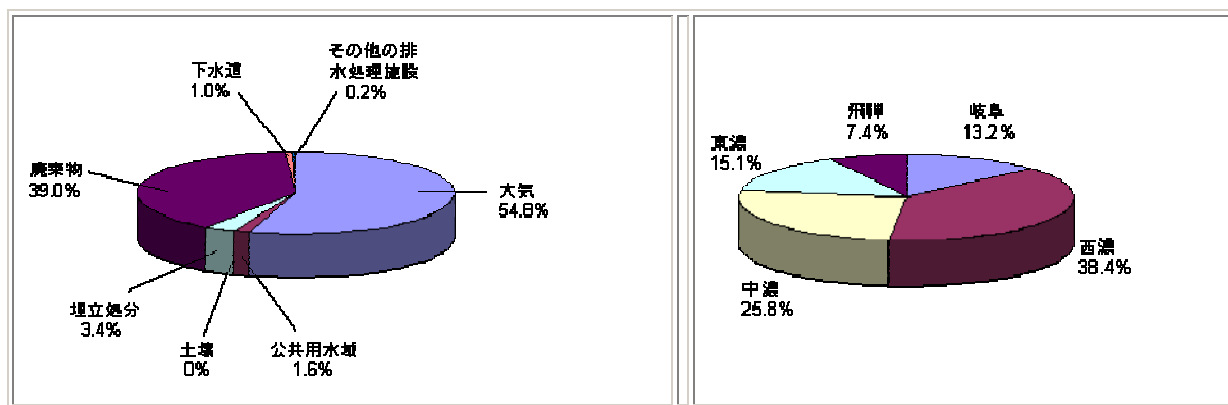


図 2 排出・移動量の媒体別割合別割合

図 3 排出・移動量の圏域別割合

(参考)

※P R T R Pollutant Release and Transfer Register (環境汚染物質排出・移動登録)

平成 11 年 7 月に「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」として制定され、平成 14 年度から事業者からの排出量等の届出が義務付けられている。

